

第3章

主な医薬品とその作用

I

精神神経に作用する薬

1

かぜ薬

学習の
目標

- 1) かぜの発症と諸症状、かぜ薬の働き
- かぜの原因と症状、かぜとよく似た症状の病気、かぜ薬の使用目的などについて学ぶ。
- 2) 主な配合成分等
- かぜ薬に配合されている解熱鎮痛成分、抗ヒスタミン成分、抗コリン成分、アドレナリン作動成分、鎮咳成分、去痰成分、抗炎症成分、鎮静成分、カフェイン類、ビタミン成分等に属する薬とそれぞれの配合目的について学ぶ。
- 特にこの章では、抗炎症成分について、それぞれの薬の作用や副作用などを詳しく学ぶ。他の成分の薬については他の章で詳しく学ぶことになる。
- かぜ薬として使用される漢方処方成分と、それぞれが適する場合、不適な場合などについて学ぶ。
- 3) 主な副作用、相互作用、受診勧奨
- かぜ薬の主な副作用、相互作用について学ぶ（かぜ薬として注意が必要なこと、それぞれの配合成分に特徴的な副作用、相互作用について理解しよう）。
- 購入者の訴え、状態などから、受診を勧めた方がよい場合について学ぶ。

ポイント1

「かぜ」という病気を理解しましょう

- 1 かぜの原因のほとんどはウイルス（200種類以上）。
- ・上気道の粘膜から感染し、急性の炎症を起こします（上気道の急性炎症の総称）。
- ・それぞれのウイルスの活動に適した環境があるので、季節によりウイルスは異なります。
- ・ウイルスの他に、細菌、冷氣、乾燥、アレルギーなどが原因となることもあります。
- 2 どんな症状か
- ・くしゃみ、鼻汁、鼻づまり、喉の痛み、咳、痰などの呼吸器症状。
- ・発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感などの全身症状。
- 3 普通のかぜは数日から1週間で治ります（予後は良好）。

ポイント2

かぜとよく似た症状がでる病気に注意します

- ・例えば、喘息、アレルギー性鼻炎、リウマチ熱、関節リウマチ、肺炎、肺結核、髄膜炎、急性肝炎、尿路感染症など。
- ・急激な発熱、症状が4日以上続いたり、症状が重篤化したりする場合はかぜではない可能性が高いので注意する。
- ・「お腹にくるかぜ」はウイルス性胃腸炎で、かぜとは違います。
- ・発熱、頭痛に嘔吐や下痢もある時は注意します。

ポイント3

かぜとインフルエンザの違いを理解しましょう

- ・インフルエンザはインフルエンザウイルスによる感染症のことです。感染力が強く、重症になりやすいため、注意が必要です。かぜとは区別して対応しましょう。

ポイント4

かぜの治療

- ・かぜは体の免疫の力によって、ウイルスが消滅すれば、自然に治ります。基本は安静・休養と、栄養・水分を十分に摂ることです。
- ・かぜ薬の働きは症状を和らげ、体力の消耗などを防ぐことです（対症療法）。ウイルスの増殖を抑えたり、除去するものではない。

ポイント5

かぜには、いつもかぜ薬？

- ・かぜ薬は総合感冒薬。解熱鎮痛成分、鎮咳去痰成分、鼻水を抑える成分などを幅広く配合しています。
- ・症状が限定されている時はかぜ薬以外でも対応できます。
- 熱のみ→解熱鎮痛薬、咳のみ→鎮咳去痰薬、鼻汁のみ→鼻炎用内服薬など。

ポイント6

かぜ薬に配合されている主な成分、配合目的(その1)

分類	主な成分	配合目的
解熱鎮痛成分	アスピリン、サザピリン、サリチル酸ナトリウム、サリチルアミド、エテンザミド、アセトアミノフェン、イブプロフェン、イソプロピルアンチピリンなど	解熱鎮痛。
解熱鎮痛成分（生薬）	ショウキョウ、ケイヒ 解熱:ジリュウ、ゴオウ、カッコン、サイコ、ボウフウ、ショウマなど 鎮痛:センキュウ、コウブシなど	解熱鎮痛。
抗ヒスタミン成分	クロルフェニラミンマレイン酸塩、カルビノキサミンマレイン酸塩、メキタジン、クレマスチンフマル酸塩、ジフェンヒドラミン塩酸塩など	くしゃみや鼻汁を抑える。
抗コリン成分	ベラドンナ総アルカロイド、ヨウ化イソプロパミド	くしゃみや鼻汁を抑える。
アドレナリン作動成分	メチルエフェドリン塩酸塩、メチルエフェドリンサッカリン塩、プソイドエフェドリン塩酸塩など	鼻粘膜の充血を和らげる。気管・気管支を広げる。
アドレナリン作動成分（生薬）	マオウ	鼻粘膜の充血を和らげる。気管・気管支を広げる。
鎮咳成分	コデインリン酸塩**、ジヒドロコデインリン酸塩** デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物、ノスカピン、チペピジンヒベンズ酸塩、クロペラスチン塩酸塩など	咳を抑える。
鎮咳成分（生薬）	ナンテンジツなど	咳を抑える。
去痰成分	グアイフェネシン、グアヤコールスルホン酸カリウム、ブロムヘキシン塩酸塩、エチルシステイン塩酸塩など	痰の切れをよくする。
去痰成分（生薬）	シャゼンソウ、セネガ、キキョウ、セキサン、オウヒなど	痰の切れをよくする。
抗炎症成分	トラネキサム酸、グリチルリチン酸二カリウム、カンゾウ（グリチルリチン酸を含む生薬）など	炎症による腫れを和らげる。
その他の抗炎症成分（生薬）	カミツレ	発汗。炎症による腫れを和らげる。
鎮静成分	プロモバレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素	鎮痛成分の補助。
制酸成分	ケイ酸アルミニウム、酸化マグネシウム、水酸化アルミニウムゲルなど	胃酸を中和し、解熱鎮痛成分（生薬以外）の胃粘膜障害を予防。

※

アスピリン、サザピリン、サリチル酸ナトリウム

15才未満の小児には使用禁忌

※※

12才未満の小児には使用禁忌